

登録コード	L2541200	開講年度	2026
担当教員	飯岡 詩朗		副担当
授業科目	英語文学発展演習Ⅱ		
英文授業名	Literature in English Avanced Seminar Ⅱ		
授業タイトル	映画研究方法論（上級）		
単位数	2	対象学生	講義期間 前期 曜日・時限 水曜・3時限
講義室	人文第2講義室	遠隔授業科目	読替科目
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		【授業の達成目標】
	2022Lカリ, 2021Lカリ		
	【2022年度以前カリ対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力	⇔	英語圏の映画研究の知見をもとに映画を分析する力を養うことをとおして自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身につく。
	【2022年度以前カリ対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー	⇔	英語圏の映画研究の知見をもとに映画を分析する力を養うことをとおして情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーが身につく。
	【2022年度以前カリ対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー	⇔	英語圏の映画研究の知見をもとに映画を分析する力を養うことをとおして他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシーが身につく。
	【2022年度以前カリ対象】グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力	⇔	英語圏の映画研究の知見をもとに映画を分析する力を養うことをとおしてグローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力が身につく。
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ		
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】	⇔	英語圏の映画研究の知見をもとに映画を分析する力を養うことをとおして人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につく。
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働		
全学横断特別教育プログラム			
授業の概要	映画作品（film）を形式的に分析する能力が作品研究の基盤ですが、研究対象となる作品の何を問題（トピック）としてとらえ、アーギュメントをつくるには、さまざまな観点から作品を吟味する必要があります。水曜3限開講の英語文学基幹演習IIでは、人種、ジェンダー、セクシュアリティ表象（representation）に注目し、作品を分析・考察するアプローチを学びますが、この英語文学発展演習IIでは、映画史に関わる複数の観点（産業、技術、受容、映画監督／作家、検閲と規制、スター制度）から書かれた研究論文を精読し議論することで、研究対象となる作品を人種、ジェンダー、セクシュアリティ表象とは別の観点からも分析・考察する力を鍛え、問題（トピック）を発見し、アーギュメントをつくる方法を修得していくことを目指します。 毎回数人が発表をし、その後で解説、ディスカッションを行います。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 産業 ("Notes on Columbia Film Corporation 1926-41") 第3回 技術1 ("Film Style and Technology in the Thirties") 第4回 技術2 ("CinemaScope: Before and After") 第5回 受容 ("This Business of America": Fan Mail, Film Reception and Meet John Doe") 第6回 映画監督／作家1 ("Howard Hawks") 第7回 映画監督／作家2 ("Female Authorship Revisited") 第8回 検閲と規制1 ("The Censorship of Blonde Venus: Textual Analysis and Historical Method") 第9回 検閲と規制2 ("Classical Hollywood According to Joseph Breen") 第10回 スター制度 ("A Star is Born: The Transnational Success of the Cheat and Its Race and Gender Politics") 第11回 履修者による作品分析1 第12回 履修者による作品分析2 第13回 履修者による研究発表3 第14回 履修者による研究発表4 第15回 まとめ＋授業アンケート ※変更することがあります。		
成績評価の方法	発表や発言など授業への参加度 50 %、作品分析発表＋期末レポート 50 %で総合的に評価します。 「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」により欠席し、補充を受けた場合を含み、欠席回数が5回を超えると、授業の達成目標に到達することができないため、単位が認定されません。		
成績評価の基準	授業への参加度については、以下の項目から評価を行います。 1）発表における分析・考察、文献読解が正確か；2）要約およびレジュメ作成が的確か；3）文献の批判的読解ができているか；4）授業で積極的に発言をしたか；5）授業での議論をリードできたか。		

成績評価の基準	上5項目すべてを満たせば「卓越している」、4項目を満たせば「かなり上にある」、3項目を満たせば「やや上にある」、2項目しか満たせない場合は「水準にある」とします。 期末レポートについては、以下の項目から評価を行います。 1) 要項どおりにレポートを作成しているか；2) テーマの設定が的確か；3) 論理的・説得的に議論ができているか；4) 先行研究との差異が明確か；5) 独創性があるか。以上5項目すべてを満たせば「卓越している」4項目を満たせば「かなり上にある」、3項目を満たせば「やや上にある」、2項目しか満たせない場合は「水準にある」とします。
事前事後学習の内容	全履修者が、まず何より文献をしっかりと読んでください。また、文献内で取り上げられている作品を積極的に鑑賞してください。 発表担当者は、授業前にレジュメや必要に応じてプレゼンテーション用のスライドなどを作成し、時間内に説得的な発表が行えるよう準備してください。 発表担当者以外の参加者は、授業前に各回で扱われる作品を鑑賞するとともに授業範囲のテキストを精読し疑問点を明確にするなどして、ディスカッションに備えてください。 授業後は、授業範囲内のテキストを再読、作品を再度鑑賞するとともに、新出の用語／単語や憶えていない用語／単語を定着させる努力をしてください。
履修上の注意	水曜3限開講の英語文学基幹演習IIと合わせて履修することを推奨します。合わせて履修しない場合、本授業の担当教員による2025年度以前の英語文学基幹演習を履修し単位を修得している学生以外は履修を推奨しません。 初回到授業の進め方を説明しますので、履修希望者は初回の授業をかならず受講してください。 「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」により欠席し、補充を受けた場合を含み、欠席回数が5回を超えると、授業の達成目標に到達することができないため、単位が認定されません。なお、出席確認システムにより出席を取りますので、スマートフォン等のQRコード読取り端末を忘れず携帯し、着席時に速やかに着席登録してください。QRコード読取り端末を忘れて所持していない場合は、学生証持参で原則授業開始前に教員に申出てください。また、30分を超える遅刻は欠席としてあつかいます。出欠回数の問い合わせには応じませんので、自身で管理してください。 「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」による欠席については、規定の申出書による申し出があれば、学修の補充を行います。ただし、補充を受けた場合でも、欠席回数が5回を超えると、授業の達成目標に到達することができないため、単位が認定されません。
質問、相談への対応	授業後もしくはオフィスアワーに対応します。直接研究室を訪問せず、事前にメールで連絡してください（実際の対応は研究室以外で行うことがあります）。それ以外の時間は電子メールでやZoom等を用いオンラインで対応します（メールアドレスは人文学部履修案内に掲載されています）。
教科書	・Jon Lewis and Eric Smoodin, eds. The American Film History Reader. Routledge, 2015. その他、必要に応じてプリントを配布します。 ※変更することがあるため、授業開始後に購入してください。
参考書	・デヴィッド・ボードウェルほか『フィルム・アート』名古屋大学出版会, 2007. ・ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』晃洋書房, 2007. ・Timothy Corrigan and Patricia White. The Film Experience: An Introduction. Bedford/St. Martin's, 2020. ・Timothy Corrigan. Short Guide to Writing about Film, 9th ed. Pearson, 2014. ・John Gibbs and Douglas Pye, eds. Style and Meaning: Studies in the Detailed Analysis of Film. Manchester University Press, 2005. ・カレン・M・ゴックシクほか『映画で実践！アカデミック・ライティング』小島遊書房, 2019. ・長谷正人・中村秀之編『映画の政治学』青弓社, 2003. ・加藤幹郎『映画 視線のポリティクス』筑摩書房, 1996. ・加藤幹郎『映画とは何か』みすず書房, 2001. ・北野圭介『大人のための「ローマの休日」講義』平凡社, 2007. ・北村匡平『24フレームの映画学』晃洋書房, 2021. ・鈴木健『現代思想を使って映画批評』小島遊書房, 2025. ・宮尾大輔『映画はネコである』平凡社, 2011. ・マイケル・ライアンほか『増補改訂版 Film Analysis 映画分析入門』フィルムアート社, 2025. ・塩田明彦『映画術 その演出はなぜ心をつかむのか』イースト・プレス, 2014. ・G・ターナー『フィルム・スタディーズ』水声社, 2012. ・James Walters and Tom Brown, ed. Film Moments: Criticism, History, Theory. British Film Institute, 2011. その他、授業で紹介します。また必要に応じてプリントを配布します。